



統計スポット情報

No. 125

H18. 12. 1

福井県総務部政策統計室

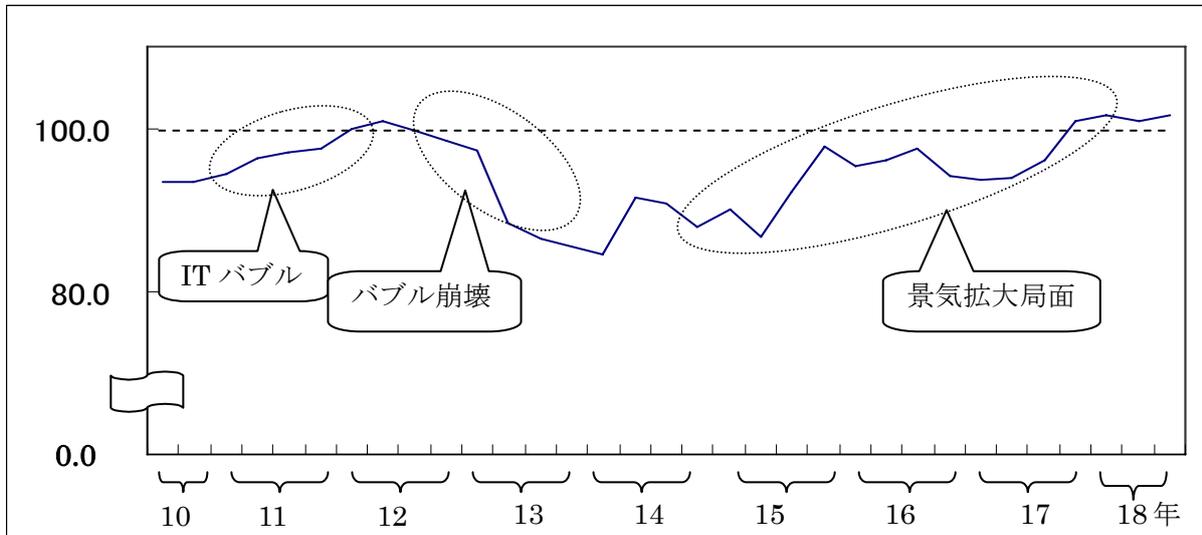
年間でITバブル期の平成12年を超えるか、福井県の生産活動

政府の発表した11月の月例経済報告で、2002年2月からの景気拡大局面は、戦後最大の「いざなぎ景気」（1965～70年の57か月）を超え、58か月連続となりましたが、本県の生産活動状況を鉱工業指数（生産）でみてみましょう。

1 4期連続で100を超える生産指数（注1）

本県の生産指数は、図1のとおり17年第4四半期から18年第3四半期までの間連続して平成12年基準で100を超えました。18年第4四半期もこの状態が続けば、年間で初めてITバブルのピーク時の平成12年を超えることとなります。

〈図1 福井県の鉱工業生産指数の推移1（四半期毎、全体）〉



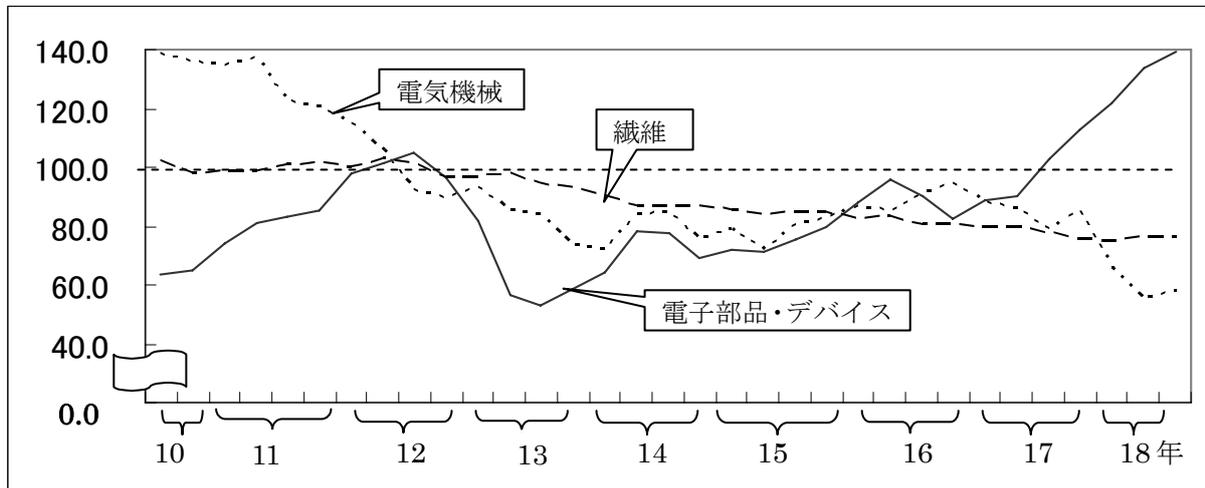
福井県総務部政策統計室

2 電子部品・デバイス工業（注2）の生産動向が生産指数に全体に反映

本県の生産ウェイトの大きい3業種（繊維工業、電子部品・デバイス工業、電気機械工業）の生産指数の変化をみると、図2のとおりで、繊維の動きが比較的安定しているのに対し、電子部品・デバイスと電気機械は、変動が大きいことが特徴的です。

電子部品・デバイスの生産指数の動向（図2）と全体の生産指数の動向（図1）がほぼ同じような動きをしていることから電子部品・デバイスが生産全体に与える影響の大きさがうかがわれます。

〈図2 福井県の鉱工業生産指数の推移2（四半期毎、繊維工業、電子部品・デバイス工業、電気機械工業）〉



福井県総務部政策統計室 <<裏面へ続く>>

(注1) 生産指数は、基準年（現在は平成12年）の月平均指数を100として、指定の対象になっている品目の生産指数（比較時の生産数量／基準時の生産数量）に、品目のウェイト（重要度）で加重平均して業種、全体の生産指数を算定します。

生産指数では、ウェイトは付加価値で算定します。

(注2) 電子部品・デバイス工業とは、電気機械器具（例 電気洗濯機、電子レンジ）や情報通信機械器具（例 パソコン、テレビ）などに用いられる電子部品とデバイス（電子装置）を製造する業種です。具体的な品目で示すと、トランジスタ、半導体、集積回路、抵抗器、コンデンサー、スイッチ、プリント回路などをいいます。

参考

福井県鉱工業生産指数の推移（四半期毎）

品目	鉱工業	繊維工業	電子部品・デバイス工業	電気機械工業	
ウェイト	10000.0	2237.9	1492.2	754.8	
10	III	93.4	101.8	63.6	138.3
	IV	93.5	97.8	64.9	136.0
11	I	94.3	98.9	74.0	134.5
	II	96.4	98.3	81.3	137.3
	III	97.1	100.4	83.5	122.5
	IV	97.5	101.4	85.6	120.6
12	I	100.0	99.9	98.0	115.0
	II	100.9	102.9	101.3	105.6
	III	99.6	101.4	105.2	92.1
	IV	98.5	96.8	96.3	89.3
13	I	97.3	96.6	81.5	92.9
	II	88.3	97.8	56.6	85.0
	III	86.4	94.5	53.0	83.6
	IV	85.4	93.1	58.3	73.5
14	I	84.5	90.2	64.0	71.7
	II	91.4	86.4	78.2	84.0
	III	90.8	87.0	77.7	84.5
	IV	87.9	86.9	69.1	75.7
15	I	90.0	85.5	71.9	79.1
	II	86.7	84.1	71.5	71.7
	III	92.1	84.7	75.3	80.2
	IV	97.7	84.4	79.5	82.7
16	I	95.3	82.4	87.9	86.6
	II	96.1	83.0	95.5	85.5
	III	97.5	80.2	90.0	90.9
	IV	94.1	80.5	82.7	94.2
17	I	93.6	79.7	89.1	88.1
	II	93.8	79.3	89.9	85.9
	III	96.0	77.6	102.8	79.2
	IV	100.9	75.4	112.6	85.6
18	I	101.7	74.5	121.9	65.8
	II	100.8	76.0	134.0	54.9
	III	101.6	75.8	139.6	58.0